

株式市場概況

先週の動き（3月14日～3月18日）

注目された日銀政策決定会合は現状維持、FOMCでは予想通り利上げは無かったが、年内の利上げ見通しが、これまでの4回から2回に減少した。その影響から、為替市場ではドル安展開となり、日本では輸出関連株が弱含んだ。米国株はドル安による企業収益の改善を要因に株価は堅調な展開が見られた。週末の日経平均株価は前週末比-1.26%の1万6,724円となった。



セクター別では建設、鉱業、小売などが上昇した。下落トップは円高ドル安で収益の低下が嫌気される輸送用機器だった。その他には保険や証券の下落が目立った。スタイルインデックスでは小型が強く、大型が弱い流れが継続している。海外勢が日本株を売る一方で、国内個人などが、海外情勢の影響が少ない小型株の物色を継続している流れが感じられる。

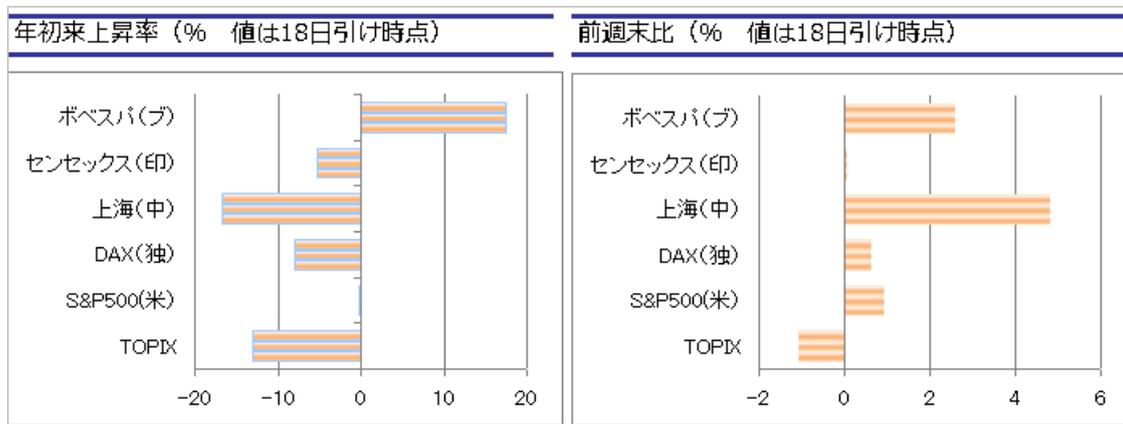
表1. セクター、スタイル・インデックス動向

セクター動向(先週末比)				各種国内株式指数動向(先週末比)			
建設業	2.36%	輸送用機器	-3.25%	マザーズ	2.64%	TOPIXグロース	-1.11%
鉱業	1.43%	保険	-3.22%	REIT指数	0.71%	TOPIX	-1.17%
小売業	1.11%	証券商品先物	-2.72%	東証2部	0.53%	TOPIXバリュー	-1.22%
石油石炭	0.72%	ゴム製品	-2.25%	TOPIXスモール	0.01%	ミッド400	-1.44%
パルプ紙	0.51%	電気ガス	-2.17%	日経平均株価	-0.45%	TOPIXL70	-1.98%
空運	0.00%	医薬品	-2.13%	コア30		-0.59%	

今後の注目点

日米欧の中銀の政策決定会合を終え、金融市場ではドル安、金利低下、日欧株は下落、米株は上昇という展開になっている。ドルインデックスは2015年12月の高値から5.7%低下しており、米国企業はその恩恵から増益となる見通しが増えている。一方で、マイナス金利を導入している日欧の通貨が上昇した。その通貨高が企業収益の悪化に繋がるとの見通しから、日欧では株が売られる展開となった。

日本では経済指標の悪化から、消費増税の延期が急速に現実味を帯び始めてきた。補正予算と増税延期が近く、相場の支え役となれるかが注目される。



株式市場需給動向 (3月2週: 3月7日~3月11日)

3月2週の投資主体別売買動向は、海外投資家の大幅売り越しを、自己、個人、信託銀行が買い向かう形となった。裁定買い残、信用買い残は共に増加した。

投資主体別売買動向 (2016年3月2週)

	現物 (億円)	先物 (億円)	差引 (億円)
自己	8768.14	337.45	9105.59
委託	-8853.84	-112.26	-8966.10
自己・委託合計	-85.71	225.19	139.48
法人	944.87	19.76	964.63
個人	2038.49	919.18	2957.67
海外投資家	-11932.03	-1061.20	-12993.22
証券会社	94.82	10.01	104.83
投資信託	-222.54	-396.78	-619.33
事業法人	333.90	15.00	348.90
その他法人	135.08	4.62	139.70
金融	698.44	396.92	1095.36
生保・損保	-272.23	-42.47	-314.70
都銀・地銀	84.12	303.93	388.05
信託銀行	736.85	135.31	872.17
その他金融機関	149.70	0.14	149.84

(価格データはロイターによる)

光世証券 小川 英幸

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。運用方針・資産配分等は、参考情報であり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

光世証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第14号 加入協会／日本証券業協会
